



# Cisco Meeting Server

Cisco Meeting Server リリース 2.0.16 ~  
3.0.0

リリース ノート バージョン サマリー

2020 年 9 月 29 日

## 変更事項

バージョン	変更
2020年8月12日	3.0.0を追加しました。 2.7.xをソフトウェアメンテナンスリリース終了に移動しました。
2020年6月25日	2.8.3、2.9.1、および2.9.2を追加しました。
2020年4月9日	2.9.0を追加しました。
2020年4月1日	2.8.2を追加しました。
2020年2月20日	2.8.1を追加しました。 2.5.xをソフトウェアメンテナンスリリース終了に移動しました。
2019年12月12日	2.6.4を追加しました。 2.6.3を修正し、更新されたブラウザのサポートを記載しました（ドキュメントの省略）。
2019年12月2日	2.7.1を追加しました。
2019年11月20日	初版発行。

---

## 新機能/変更の概要

このドキュメントでは、公開されている各バージョンの Meeting Server ソフトウェアの新機能と変更点について簡単に概要を説明します。各リリースおよび解決済みの問題の詳細については、該当するリリース ノートを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/meeting-server/products-release-notes-list.html>

各ソフトウェア バージョンでのブラウザ サポートの詳細については、『[Cisco Meeting App WebRTC Important Information \(Cisco ミーティング アプリケーション WebRTC 重要事項\)](#)』 [英語] を参照してください。また、Web Bridge 3 を展開しているバージョン 2.9 以降については、『[Cisco Meeting Server web app Important Information \(Cisco Meeting Server Web アプリケーション重要事項\)](#)』 を参照してください。

### バージョン 3.0.0

(2020 年 7 月リリース)

---

注：Meeting Server 3.0 では、Cisco Meeting Management 3.0（またはそれ以降）を使用するための必須の要件が導入されています。Meeting Management は、製品登録と、スマート ライセンスのサポートに関連するスマート アカウント（セットアップされている場合）とのやり取りを処理します。

---

- レガシーの Meeting Server コンポーネントの削除およびその他の変更。Meeting Server で以下の機能とサービスが提供終了またはサポート終了となります。
  - Web Bridge 2：デスクトップ用、iOS 用、および WebRTC 用 Cisco ミーティング アプリケーションはサポート終了となりました。
  - XMPP
  - H.323 ゲートウェイ
  - ロード バランサ
  - SIP エッジ
  - トランク
  - X シリーズ サーバ
  - ACU

- ライセンスの購入、登録、ソフトウェア管理におけるユーザ エクスペリエンス向上 を目的としたスマート ライセンスのサポート。
- Cisco Meeting Server のアップグレード時に Image Signing を使用することによるセキュリティの向上。
- 管理者が設定可能な最小パスコード長による、ミーティングのダイヤル方法すべてに共通するセキュリティ強化。
- XMPP 内部レコーダーおよびストリーマ コンポーネントを置き換える新しい内部 SIP レコーダーおよびストリーマ コンポーネント。新しいレコーダーおよびストリーマ はレイアウト変更をサポートしており、新しいストリーマは最大 1080p の解像度をサポートします。
- Web Bridge の設定は、API 内の Web Bridge プロファイルとの設定に移動しました。
- Cisco Meeting Server Web アプリケーションでは、廃止された WebRTC 用 Cisco ミーティング アプリケーションと同等の機能を提供するため、3.0 で多数の新機能が導入されています。3.0 で導入された Web アプリケーションの機能の完全なリストについては、『Cisco Meeting Server 3.0 web app Important Information (Cisco Meeting Server 3.0 Web アプリケーション重要事項)』を参照してください。Meeting Server 側で設定が必要な Web アプリケーションの機能の一覧を以下に示します。
  - ビデオ アドレス (URI) を使用したミーティングへの参加。
  - Web アプリケーションからの参加者のアクセス許可の変更。
  - ビデオ会議における Web アプリケーションからの参加者に対する名前レベルの表示。
  - 録音/ストリーミング、ミーティングのロック/ロック解除、重要度に関する Web アプリケーションの制御。
  - 中間/エンドエンティティ (root 以外) の証明書を受け入れるように、C2W 接続を変更。
  - Web アプリケーションのサインイン ページを独自のブランディングを使用してカスタマイズ可能。
- オートゲインコントロール (AGC) は、デフォルトでは有効になっています。
- ESXi7.0 のサポート。
- 割り当て済みの PMP ライセンス数のレコードの履歴を表示可能。

---

## バージョン 2.9.2

(2020 年 6 月リリース)

- 問題の解決のみで、機能の変更はありません。詳細については、2.9.2 のリリース ノートのセクション 4.1「解決済みの問題」を参照してください。

## バージョン 2.9.1

(2020 年 4 月リリース)

- 問題の解決のみで、機能の変更はありません。詳細については、2.9.1 のリリース ノートのセクション 4.1「解決済みの問題」を参照してください。

## バージョン 2.9.0

(2020 年 4 月リリース)

- Cisco Meeting Server Web アプリケーション (Web Bridge 3) \* は、ミーティングの新しい参加方法であり、ユーザ ポータルです。Web アプリケーションは、最終的に Cisco ミーティング アプリケーション WebRTC を置き換えます。
- カスタム電子メール招待は、新しい Cisco Meeting Server Web アプリケーションで使用するものです。
- 追加のロック モードにより、ミーティングのロックが可能になり、すべての参加者はロビーで待機状態となります。API を介して参加を許可されるか、ロック解除権限を持つユーザ (ホストとは限らない) によってミーティングがロック解除されるまで、ミーティングに参加できません。(既存のロック モードでは特定の参加者にロックをバイパスさせることが可能でした)。
- 新しい API コマンドを使用して、参加者がロビーからミーティングに入室するのを許可する方法。
- サードパーティの SIP レコーダーの設定をサポート: 録音が始まると、Meeting Server のレコーダー コンポーネントを使用する代わりに SIP URI がコールされます。
- 参加者 2 人のミーティングでのパノラマ表示ビデオ レイアウト エクスペリエンスをサポート。この機能は、新しいパノラマ エンドポイントをサポートします。バージョン 2.9 では、ベータ サポートとなります。
- 4K コンテンツをサポートするあらゆるエンドポイントで 4k コンテンツをサポート。

- 
- Chromium ブラウザのビデオおよびコンテンツの品質向上\*。
  - より強力な暗号化のサポートにより、セキュリティが向上。
  - Meeting Server API を使用した、リモート システムのカメラの Far End Camera Control (FECC; 遠端カメラ制御) の開始をサポート。
  - Meeting Server Web インターフェイスで利用可能なシンプルな API ユーザ インターフェイス。
  - オート ゲイン コントロール (AGC) を有効化する機能は、2.8 でベータ機能として導入され、現在は完全にサポートされています。
  - API を使用した coSpace テンプレートの作成と適用をサポート。

---

注：アスタリスク (\*) でマークされている機能は、バージョン 2.9 では Acano X シリーズでサポートされません。

---

## バージョン 2.8.3

(2020 年 6 月リリース)

- 問題の解決のみで、機能の変更はありません。詳細については、2.8.3 のリリース ノートのセクション 4.1「解決済みの問題」を参照してください。

## バージョン 2.8.2

(2020 年 4 月リリース)

- 問題の解決のみで、機能の変更はありません。詳細については、2.8.2 のリリース ノートのセクション 4.1「解決済みの問題」を参照してください。

## バージョン 2.8.1

(2020 年 2 月リリース)

- Chromium ブラウザでの H.264 のデフォルト動作が、Chrome のソフトウェア デコーダを使用して 1080p のメインおよびコンテンツ ストリームをデコードできるように変更されました。それによりミーティングの品質とユーザ エクスペリエンスが向上しました。
- 解決済みの問題

---

## バージョン 2.8.0

(2019 年 11 月リリース)

- カスタマイズ可能なレイアウト。管理者は、特定のニーズに合ったカスタム レイアウトをより柔軟に作成および適用できます。
- Far end camera control (FECC; 遠端カメラ制御)。FECC に対応するすべての SIP エンドポイントをサポートし、管理者が遠端のカメラをリモートで制御できるようにします。
- 音声プロンプト。ミーティングのロック/ロック解除の状態とミーティングの参加人数がわかります。
- オート ゲイン コントロール (AGC) を有効化する機能。これは、このリリースのみのベータ機能です。
- ESXi 6.7 および ESXi6.5 Update 2 以降の M4 およびスペックベースのサーバでの ESXi のサポート機能の改善。
- ピア ツー ピア ICE ネゴシエーションを無効化する機能。
- パケット キャプチャの最大サイズが 1 GB に増加。

## ソフトウェア メンテナンス リリースの終了

### バージョン 2.7.1

(2019 年 11 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの Yandex ブラウザのベータ サポート
- WebRTC アプリでの Chromium ベースの Microsoft Edge ブラウザのベータ サポート
- WebRTC アプリのマイクまたはカメラなしで参加する新オプション

### バージョン 2.7.0

(2019 年 8 月リリース)

- バージョン 2.4 で最初に導入されたペイン配置機能の機能拡張
- Lync/Skype for Business クライアントと非 Lync クライアント (SIP エンドポイントおよび Cisco ミーティング アプリケーション ユーザ) の間で共有するコンテンツのパフォーマンス改善

- データベース クラスタ内のデータベース クライアントとデータベース サーバでの 証明書の使用の強制
- Meeting Server の使用率を把握する目的で syslog に追加された使用率統計情報
- Web 管理インターフェイスの [詳細トレース (Detailed tracing) ] ページに追加された ICE トレース

## バージョン 2.6.4

(2019 年 12 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの Chromium ベースの Microsoft Edge ブラウザのベータ サポート

## バージョン 2.6.3

(2019 年 10 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの Yandex ブラウザのベータ サポート
- WebRTC アプリケーションでマイクまたはカメラなしで参加する新しいオプション

## バージョン 2.6.2

(2019 年 8 月リリース)

- 問題の解決のみで、機能の変更はありません。詳細については、2.6.2 のリリース ノートのセクション 4.1「解決済みの問題」を参照してください。

## バージョン 2.6.1

(2019 年 5 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの追加のブラウザ サポート
- X シリーズのサポート (2.6.0 ではサポートされていません)

## バージョン 2.6.0

(2019 年 4 月リリース)

- PMP Plus のライセンスの使用状況とライセンス レポートへの変更
- Skype for Business 2019 のサポート



- 
- 参加者を会議間で移動できる機能
  - Call Bridge グループ内の Cisco Meeting Server 2000s でのコール キャパシティの増加
  - Cisco Meeting Server 1000 M5 での ESXi 6.7 のサポート。
  - シスコ サポートが Meeting Server の問題を診断する際に役立つ、サービスアビリティを高めるための 2 つの新機能
  - Cisco Meeting Server では VMware ESXi 5.5 以前のバージョンはサポート終了となりました。
  - デュアル スクリーン エンドポイントは、デフォルトで有効になっています。
  - 分散リンクでサポートされるビデオ ストリームの拡大は、最初にバージョン 2.3 でプレビューされましたが、現在もプレビュー段階の機能のままです。

---

チャット メッセージ ボードに関する注意事項：チャット メッセージ ボードを使用する既存の展開では、2.6 へのアップグレード時にチャットが有効のままになります。それ以外の場合は、API を使用して、パラメータ `messageBoardEnabled` を `true` に設定して `callProfile` を作成する必要があります。

---

## バージョン 2.5.4

(2019 年 9 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの Yandex ブラウザのベータ サポート
- WebRTC アプリケーションでのマイクまたはカメラなしで参加する新しいオプション

## バージョン 2.5.3

(2019 年 4 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの追加のブラウザ サポート

## バージョン 2.5.2

(2019 年 3 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの追加のブラウザ サポート

---

## バージョン 2.5.1

(2019 年 1 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの追加のブラウザ サポート
- Web 管理インターフェイスの [New Media Module Status] フィールド

## バージョン 2.5.0

(2018 年 12 月リリース)

- 別の Web サーバを使用しない、Meeting Server でのブランディング ファイルのローカル ホスト
- WebRTC アプリケーションでの追加のブラウザ サポート
- シスコ サポートが Meeting Server の問題を診断する際に役立つ、サービスアビリティを高めるための新機能
- リリース前の特定機能をオンまたはオフに切り替えることができる新しい MMP コマンド
- 分散リンクでサポートされるビデオ ストリームの拡大は、最初にバージョン 2.3 でプレビューされましたが、現在もプレビュー段階の機能のままです。

## バージョン 2.4.7

(2019 年 6 月リリース)

新機能は導入されていません。問題解決のみです。

## バージョン 2.4.6

(2019 年 4 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの追加のブラウザ サポート

## バージョン 2.4.5

(2019 年 4 月リリース)

- iPhone 用 iOS での Safari の完全サポート

## バージョン 2.4.4

(2019 年 3 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの追加のブラウザ サポート

## バージョン 2.4.3

(2019 年 1 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの追加のブラウザ サポート
- Web 管理インターフェイスの [New Media Module Status] フィールド
- iOS で Safari を使用した WebRTC アプリケーションのサポート。

## バージョン 2.4.2

(2018 年 11 月リリース)

- WebRTC アプリケーションでの追加のブラウザ サポート
- Office 365 PSTN 音声サポート

## バージョン 2.4.1

(2018 年 10 月リリース)

新機能は導入されていません。問題解決のみです。

## バージョン 2.4.0

(2018 年 9 月リリース)

- Lync、Skype for Business、O365 のミーティングにおけるミュート/ミュート解除 のミーティング制御の改善と、AVMCU サーバでエンドポイントがミュート/ミュート 解除されたときに表示される SIP エンドポイントの視覚インジケータ（デュアル ホームおよびゲートウェイ呼び出し）の改善。

- Meeting Server に接続されているエンドポイントのどのペインにどの参加者が表示されるかを制御する機能
- Cisco Meeting Server 2000 でのコール キャパシティの増加
- Expressway 展開でのロード バランシング
- WebRTC 版 Cisco ミーティング アプリケーションをサポートする Web ブラウザの追加
- 設定された NFS からビデオ コンテンツ マネージャ Vbrick に Meeting Server の録画を簡単にアップロードするアップローダ ツール。(バージョン 2.4.0 から完全にリリースされた機能。)
- レコーダーの録画解像度を設定する機能
- 暗号化されていないメディアのアクティベーション キー
- Meeting Server で発生している変更についての「イベント クライアント」へのリアルタイム通知のサポート
- クラスタ化された Call Bridge 展開での DTMF キー シーケンスの使用のサポート
- Call Bridge と Web Bridge の信頼ストア。信頼ストアは、XMPP サーバ検証用の証明書許可リストを保持できます。さらに、Call Bridge の信頼ストアは、クラスタ内の Call Bridge の証明書ホワイト リストを保持できるので、クラスタのセキュリティを強化できます。
- 分散リンクでサポートされるビデオ ストリームが増えたことにより、リモートのシングル スクリーン、デュアル スクリーン、および 3 スクリーンのエンド ポイント システムからのビデオ エクスペリエンスがさらに安定しました。(まだプレビュー段階の機能です。)
- Meeting Server ログ バンドルに追加されたアクティブ コールのコール診断情報 (syslog および live.json ファイルを含む)。
- 追加の MMP コマンド
- 新しい API 機能
- 特定の時点で Lync クライアントなどのエンドポイントによって会議が記録されたことを示す新しい CDR
- WebRTC アプリのログイン ページ、IVR メッセージ、SIP または Lync コール メッセージまたは招待テキストにブランディングを適用するために、ブランド ライセンスを購入する必要がなくなりました。
- バージョン 2.4 以降では、Cisco Meeting Server ソフトウェアで Microsoft Hyper-V はサポートされません。

- バージョン 2.4 から、Web Bridge は XMPP サーバの TLS 証明書を正しく検証します。Meeting Server のアップグレード後に WebRTC アプリケーションのユーザがログインできない場合は、アップロードされた XMPP 証明書が証明書ガイドラインのアドバイスに従っているか確認してください。具体的には、SAN フィールドで XMPP サーバのドメイン名が保持されます。バージョン 2.4 より前は、XMPP 証明書の検証に問題がありました。

---

**着信コールに関する注意:** デフォルトでは、着信コールは許可されていません。Cisco ミーティング アプリケーションのユーザに対する着信呼び出しを許可するには、API オブジェクト `/user/profiles/<user profile id>` に対してパラメータ `canReceiveCalls=true` を設定します。

---

## バージョン 2.3.11

(2017 年 12 月リリース 2.3.0 ~ 2019 年 3 月リリース 2.3.11)

2.3.x リリースのソフトウェア メンテナンスは終了しているため、すべての 2.3.x バージョンの新機能と重要な情報をすべて次のリストにまとめました。

- Google Chrome バージョン 72 を使用した WebRTC アプリケーションのサポートの導入 (バージョン 2.3.10 で導入)。
- AVMCU 会議の参加者に対する Office 365 PSTN 音声サポート (バージョン 2.3.9 で導入)。
- Web リンク アクセスが無効な場合のゲスト参加動作の改善 (バージョン 2.3.3 で導入)。
- Lync と Skype for Business 参加者の会議エクスペリエンスが改善されました。Meeting Server は、ビデオ参加者ごとに高解像度および低解像度の H.264 ビデオ ストリームを AVMCU に送信します。低い解像度の受信しかできない Lync クライアントがコールに参加する場合に参加者が経験するビデオ品質の低下をこれらのデュアル ストリームで防ぎます。
- SIP 参加者を Lync 会議に接続する場合の Call Bridge の動作を選択できます。
- 新しい Cisco ミーティング アプリケーション バージョン 1.10 のサポート。これには、DTMF キーパッドを使用せずにユーザ インターフェイスで会議をロック/ロック解除する機能など、改良された直感的なユーザ インターフェイスが含まれます。詳細については、Cisco ミーティング アプリケーション バージョン 1.10 のリリース ノート を参照してください。

- 新しい Cisco ミーティング アプリケーション バージョン 1.10 に合わせてユーザ インターフェイスがさらに直感的になった新しい WebRTC アプリケーション。WebRTC のサインインのカスタマイズも変更されました。
- Call Bridge グループを使用して Cisco ミーティング アプリケーションのコールをスペースにロード バランシングする機能のサポート。
- Meeting Server がゲートウェイとして機能しているときに、着信音声コールによって新しい宛先への発信コールのビデオ ストリームが生成されないようにすることができます。
- Cisco Meeting Server 2000 からの syslog メッセージは、どのメディア ブレードがエラーメッセージの発生源であったかを示すようになりました。
- Cisco Meeting Server 1000 と汎用 Cisco Meeting Server VM の展開で、ESXi 6.5 アップデート 1 および ESX 6.0 アップデート 3 をサポートします。
- デフォルトで有効になっているデュアル スクリーン エンドポイントのサポート。
- TLS 1.2 のサポート。
- 分散リンクでサポートされるビデオ ストリームが増えたことにより、リモートのシングル スクリーン、デュアル スクリーン、および 3 スクリーンのエンドポイント システムからのビデオ エクスペリエンスがさらに安定しました。これはプレビュー段階の機能です。
- 設定された NFS からビデオ コンテンツ マネージャ Vbrick に Meeting Server の録画を簡単にアップロードするアップローダ ツール。これはプレビュー段階の機能です。
- 追加の MMP コマンド。
- 新しい API 機能
- その他の改善

## バージョン 2.2.14

(2017 年 5 月リリース 2.2.0 ~ 2018 年 12 月リリース 2.2.14)

2.2.x リリースのソフトウェア メンテナンスは終了しているため、すべての 2.2.x バージョンの新機能と重要な情報をすべて次のリストにまとめました。

- エンドポイントにセキュリティ アイコンを表示するかどうかを決定する機能
- OBTP スケジューリングを使用した Office 365 デュアル ホーム エクスペリエンス のサポート

- 
- デュアル スクリーン エンドポイントのサポート強化
  - SIP エンドポイントへの発信コールのロード バランシング
  - メイン ビデオとコンテンツの最大品質レベルの設定のサポート
  - DTMF コンマ処理の改善
  - メイン ビデオの重要な人物のサポートを含む、ユーザ エクスペリエンスを向上させるためのレイアウトとスクリーンの変更
  - SIP の UDP シグナリング制御の強化
  - シスコ サポートが問題をトラブルシューティングするのに役立つ診断ツール
  - これらの新機能をサポートする追加の API オブジェクトとパラメータ
  - 新しい機能に対する CDR サポートの追加。

---

WebRTC アプリケーションのログイン ページでの背景画像のブランディング変更に関する注意事項 : Meeting Server 2.1.2 以降では、設計が変更された Web Bridge 2.0 はサポートされなくなりました。代わりに、WebRTC アプリケーションでログイン ページの背景画像のブランディングを変更できる Web Bridge 1.9 をサポートしています。

---

## バージョン 2.1.12

(2016 年 12 月リリース 2.1.0 ~ 2018 年 9 月リリース 2.1.12)

2.1.x リリースのソフトウェア メンテナンスは終了しているため、すべての 2.1.x バージョンの新機能と重要な情報をすべて次のリストにまとめました。

- Call Bridge グループとロード バランシング コールのサポート
- ActiveControl のサポート
- ミーティングのストリーミングのサポート
- ミーティングの参加オプションの改善
- Lync と Skype for Business からの参加者のミーティング エクスペリエンスの改善
- Cisco Expressway X8.9 のサポート

- 
- その他の新機能
  - 追加の MMP コマンド
  - これらの新機能をサポートする追加の API オブジェクトとパラメータ
  - 新しい機能に対する CDR サポートの追加
  - 一部のシスコ エンドポイントのサポート終了
- 

着信コールに関する注意事項 : Meeting Server バージョン 2.1 では、Cisco ミーティング アプリケーションによる着信コールの処理方法が変更されました。デフォルトでは、着信コールは許可されていません。Cisco ミーティング アプリケーション ユーザに対する着信コールを許可するには、API オブジェクト /user/profiles/<user profile id> に対してパラメータ canReceiveCalls=true を設定します。

---

## バージョン 2.0.16

(2016 年 8 月初回リリース 2.0.0 ~ 2017 年 8 月リリース 2.0.16)

2.0.x リリースのソフトウェア メンテナンスは終了しているため、すべての 2.0.x バージョンの新機能と重要な情報をすべて次のリストにまとめました。

- Cisco Meeting Server 1000 のサポート。
- Cisco マルチパーティ ライセンス（個人および共有）のサポート。
- Cisco 製品であることを反映するために Meeting Server のブランドを変更しました。これには、新しい製品名、新しいシスコ ロビー画面、Web 管理インターフェイスのブランド変更、新しい音声プロンプト、名前ラベルの動作の変更、新しいデフォルトの背景画像、Web Bridge の [参加 (Join) ] ウィンドウが含まれます。
- アドホック コール エスカレーションで Cisco Unified Communications Manager (CUCM) の双方向コールを Meeting Server での会議にエスカレートする機能。
- Lync と Skype for Business コールのコンテンツを共有するための帯域幅を制御する機能。
- Meeting Server でのコールをスケジュールする TMS のサポート。詳細については、TMS のリリース ノートを参照してください。



- ミーティングに参加する参加者が増えるにつれて SIP エンドポイントのスクリーン レイアウトを自動で変更する「onePlusN」レイアウトの追加。
- コールの最大継続時間を設定する機能。
- Cisco ミーティング アプリケーションのユーザに対して、音声、ビデオ、プレゼンテーションの共有を制限する機能。たとえば、ペアリングや、プレゼンテーションの共有、ミーティングの管理に Cisco ミーティング アプリケーションを使用している場合は、メディアを必要としません。これらの制限は、SIP コールの直接ダイヤルや、SIP エンドポイントのグループには適用されません。
- スペースへの非メンバ アクセスを制御する機能（たとえば、SIP エンドポイント経由での参加の許可または禁止や、ゲスト アクセスの制御）。
- Cisco Meeting Server 1000 に対応するために、サポートされるコア数が 64 から増えました。このコア増加を活用するには、ESXi 6 および VM ハードウェア バージョン 11 にアップグレードする必要があります。
- アクティブなデータベース接続の数を監視する機能。新しい syslog メッセージが各（データベース対応）サーバで毎分生成され、データベース マスターで使用されている 接続数と、構成されている最大接続数が報告されます（リリース 2.0.1 以降）。
- 2.0.4 から、TURN サーバのデフォルト設定が変更されました。デフォルトで、TURN サーバは、以前のリリースのようにポート 443 ではなく、Call Bridge からの TCP 通信 をポート 3478 でリッスンするようになりました。
- 次の目的のための API オブジェクトとパラメータが追加されました。
  - シスコのユーザ ライセンス
  - スペースへの非メンバのアクセスを制御する（API では coSpace という）
  - 設定された時間の後にコールを切断する
  - 着信コールの宛先 URI に存在する追加のパラメータを発信コールの宛先 URI に転送するかどうかを制御する
  - SIP エンドポイントの onePlusN スクリーン レイアウトを選択する
  - Cisco ミーティング アプリケーションのユーザに対する音声、ビデオ、および プレゼンテーションの共有を制限する

- 
- クラスタリングが有効な状態で Call Bridge が現在作動しているかどうかを確認する
  - Cisco TelePresence Management Suite とその他の管理ツールでのスペースの一括作成をサポートする
  - メッセージボードチャットは、以前のバージョンで使用されていなければ、バージョン 2.0 からはデフォルトで無効になっています。これが新しい展開である場合や、既存のバージョンで Cisco ミーティングアプリケーションまたは Acano クライアントを使用していないため Cisco ミーティングアプリケーションを展開してユーザがチャットを使用できるようにする場合は、API を使用してチャットを有効にする必要があります。これを実施してから、バージョン 2.0 にアップグレードできます。アップグレード時に設定が保持されません。

メッセージボードチャットを使用する既存のバージョン 1.9 の展開では、2.0 にアップグレードすると、チャットは有効のままになります。

- Acano サーバリリース 1.8 に初めて導入された SIP および Lync コールトラバーサル機能は、バージョンでは 2.0.x ではまだベータ機能です。実稼働環境向けではありません。リモートの Lync 展開と Meeting Server の間で Cisco Expressway を使用することをお勧めします。『[Cisco Expressway with Cisco Meeting Server and Microsoft Federation deployment guide \(Cisco Expressway を使用した Cisco Meeting Server および Microsoft Federation 導入ガイド\)](#)』 [英語] を参照してください。

## Cisco の法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェアライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジー図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この文書の印刷されたハード コピーおよび複製されたソフト コピーは、すべて管理対象外と見なされます。最新版については、現在のオンライン バージョンを参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所と電話番号は、当社の Web サイト (<http://www.cisco.com/web/JP/about/office/index.html>) をご覧ください。

© 2019–2020 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

---

## シスコの商標

Cisco および Cisco のロゴは、米国およびその他の国における Cisco およびその関連会社 の商標を示します。シスコの商標の一覧については、[www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks) をご覧ください。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1721R)